



■基礎データ

タイトル	緊急地震速報を聞いたときの「正しい行動」を学ぼう	
ねらい (学習目標)	1. 地震の怖さを知る 2. 緊急地震速報とは何かを学ぶ 3. 緊急地震速報後の対応の仕方を学ぶ	
対象学年	小学部（「指導上の留意点」の表現を変更することで中学部にも応用可）	
教科・イベント等	事前学習1（総合的な学習・特別活動）	
学習形態	全員（授業）・グループ	計45分
準備	ワークシート（A～C）、緊急地震速報リーフレット（気象庁）、アンケート（「地震アンケート」）、退避行動イラスト、ホワイトボード・ペン、訓練用音源（※緊急地震速報チャイム音入手方法を参照）など	

■学習の流れ

構成・学習活動の内容	指導上の留意点（主な発問と子どもへの援助）
導入	
1. 地震の怖さを知る 学習のポイント1「地震によって起こる被害を知る。」	<p>「今日はみんなで「自分の身を守るため、大切な命をまもるため」にはどうすれば良いかということについて勉強します。」「では、まず初めにみんなに聞いてみます。みなさんは今まで何度も避難訓練を行ってききましたが、なんのためにやっているかわかりますか？</p> <p>※ここでいくつかの災害を挙げさせる（地震、津波、雷、暴風雨、竜巻、噴火、土石流、雪崩、大規模火災や爆発（人為災害）等）</p> <p>「そうですね。自然現象によって起きる被害を「災害」といいますが、その中でも特に日本は地震が多い国と言われています。今までも何度か地震の経験はあると思いますが、揺れた！と思って机の下に隠れたとしてもすぐにおさまるものがほとんどでした。でも、地震の大きさは色々で、すぐに終わる時ばかりではありません。」</p> <p>※過去に発生した地震（東日本大震災、阪神・淡路大震災等）について、振り返る。</p> <p>「みなさんは起震車体験をしたことがあると思いますが、ゆれがどんどん大きくなって、長い時間続くものもあります。そうなる、どんなことが起こるかかわかりますか？分かる人は手を挙げてください。」</p> <p>「そんな怖い地震ですが、天気予報で教えてくれる台風などと違って、いつどこでおこるか分かりません。突然大きな揺れが来ることもあります。そのようにいつおこるか分からない地震から身を守ることはとても大切なことです。」</p> <p>※何人かに発表させる。</p> <p>「ものがおちてくる」「移動する」「倒れる」「ガラスが割れる」を確認する。</p>
展開1	
2. 緊急地震速報についての基礎的な仕組みを知る 学習のポイント1「緊急地震速報のチャイム音は、テレビ・ラジオと携帯電話では音が違うことを理解する。」	<p>「今日はみなさんに、緊急地震速報（きんきゅう・じしん・そくほう）のことを説明します。この言葉を知っていますか？」</p> <p>※音は何かを何人かに発表させる。</p> <p>「テレビを見ているときに『ティロン♪ティロン』という音が鳴って『緊急地震速報です。強い揺れに警戒して下さい』という放送が流れることがあります。これが緊急地震速報です。さっそく音を聞いてみたいと思います。」 ※緊急地震速報のチャイム音を流す</p>



<p>学習のポイント2「強い揺れが到達するまでの猶予時間を理解し、短い時間で身を守る行動をとらなければならないことをイメージする。」</p> <p>学習のポイント3「緊急地震速報が間に合わない、発表基準に満たない揺れの小さい地震では速報が発表されない等、技術的な限界があることを知る。」</p>	<p>「今聞いたチャイム音が緊急地震速報です。テレビやラジオで流れる音です。聞いたことありますか。」 ※手をあげさせて確認する</p> <p>「この音とは少し違いますが、お父さんお母さんの携帯電話からも緊急地震速報が流れます。『ヒューヒューヒュー』という音です。聞いたことがある人もいるかもしれませんね。」 ※携帯でも流れることがあることを理解させる</p> <p>「緊急地震速報は、地震による強い揺れがくる前に『地震です、気を付けて下さい!』と知らせてくれるチャイム音ですが、緊急地震速報を聞いてから、強い揺れがくるまでにどれくらいの(猶予)時間があると思いますか。」 ※何人かに発表させる。</p> <p>「チャイム音が鳴ってから強いゆれが来るまで、数秒から数十秒しかありません。あっという間に地震がきます。わずかな時間で自分の身を守らなければなりません。」 ※いくつか時間を例示して、全員に手を挙げさせるのもよい。</p>
<p>展開2</p>	
<p>3. 緊急地震速報後の対応の仕方を学ぶ</p> <p>学習のポイント1「身を守る方法を身につけさせる。」</p> <p>学習のポイント2「机場ない時の身を守る対応行動「だんごむし」を理解する。」</p> <p>学習のポイント3「自分で考えて行動することの大切さを理解する。」</p>	<p>「地震はいつ起こるかわかりませんし、緊急地震速報もいつ鳴るかわかりません。学校にいても、先生や大人がそばにいないこともあります。保健室に向かって廊下を歩いているとき、トイレにいるとき、グラウンドで走っているときなど、緊急地震速報が鳴ったら、どうすればいいですか。どうすれば自分の身を守ることができますか。」 ※何人かに発表させる。</p> <p>「一番大切なことは頭を守ることです。教室にいた時は頑丈な机がありますので机の下にもぐります。机から頭を出さないように、強い揺れに備えて机の足をしっかり持ってください。」</p> <p>「机がなかったらどうしますか。頭を守るためにどのようにすれば安全かをこれからみんなで練習してみたいと思います。」</p> <p>「頭を守るためには立っていると危険です。まず、姿勢を低くしてしゃがむこと。床に両方の膝と肘をついて、頭を両手で抱えて丸く小さくなることです。やってみましょう。」 ※その場で身を守る行動をとらせる ※できない児童には、教師が補助して「だんごむし」のポーズをとらせる(しっかり覚えさせる)</p> <p>「今の姿勢のことを「ダンゴムシ」のポーズといいます。ダンゴムシを知らない人もいますが、ダンゴムシは小さな虫ですが、敵が近づいてきて、危ないと感じたら体を丸めて丸い“おだんご”とか“丸い石”のようになり、揺れがおさまるのを待ちます。」 ※「だんごむし」イラストを見せる。 ※「だんごむし」イラストを見せる。</p> <p>「机のような隠れる物がない(まわりの状況がわからない)ときには、逃げ回ったりしないで、その場でダンゴムシの姿勢になります。」</p> <p>「緊急地震速報を聞いてから、強い揺れがくまで少しの時間しかありません。先生から言われなくても、自分で考えて慌てずに落ちついてダンゴムシの姿勢をとってください。もし先生や大人が近くにいなくても、自分で考えて行動してください。」</p>



	<p>「では、緊急地震速報のチャイム音を流すので、今度は自分で考えて行動してみてください。」 ※チャイム音を鳴らして復習する ※しっかり「だんごむし」のポーズができるよう教師が補助する</p>
<p>まとめ (1分)</p>	
<p>4. 緊急地震速報を用いた避難訓練について説明する</p> <p style="background-color: #fff2cc;">学習のポイント1「自分の命は自分で守るという意識をもつ。」</p>	<p>「みなさん。自分の身を守ることができるようになりましたか。これから緊急地震速報の音を流した避難訓練が始まります。大事なことは誰かに言われなくても自分の命は自分で守るんだという気持ちを持って自分で判断することです。「自分で考えるということは難しいことかもしれませんが、このことは今だけでなく、皆さんが大きくなっても、どこにいても役に立つことなので、是非できるようになってほしいと思います。」 「このあと、各クラスで復習します。」 ※行動が定着するまでは、事前に訓練時間を予告して、事前指導を行う。</p>

■評価ポイント

1 緊急地震速報の基礎的な仕組みを理解しているか
2 強い揺れや緊急地震速報を聞いた時、どのような行動をとらなくてはいけないかを理解しているか
3 自分の判断で危険を回避し、自分の判断で行動することが理解できたか

■特記事項

・ 中学部や高等部では、地震や緊急地震速報のしくみなどの「理科学習」につなげることができる
・ 中学部以上では、グループワークによって個々の意見を共有すると効果的
・ 効果測定を行う場合、指導前後に事前事後評価のためのアンケート「地震アンケート」を記入させ確認する

【緊急地震速報チャイム音入手方法】

- ・ 「緊急地震速報の受信時の報知音の音源提供について」 緊急地震速報利用者協議会
http://www.eewrk.org/eewrk_hochi-on/eewrk_hochi-on.html
- ・ 「緊急地震速報の入手方法について」 気象庁
<https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/katsuyou/receive.html>